

令和 7 年度

運営に関する計画

最終評価（全体会）

令和 8 年 3 月 2 日

大阪市立南住吉小学校

めざす子ども像	思いやりをもち、助け合える子 自ら学び、最後までやりとげる子 健康で、たくましい子 目標に向かって、みんなで協力できる子
学校教育目標	「自他を大切にする心、確かな学力、健康な体を基盤とした社会に貢献できる子を育成する」

1 学校運営の中期目標

【安全・安心な教育の推進】

(1) 安全・安心な教育環境の実現

- ・「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

(2) 豊かな心の育成

- ・「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を向上させる。
- ・「自分に良いところがありますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

(1) 誰一人取り残さない学力の向上

- ・全国学力・学習状況調査における平均正答率の向上をめざす。

(2) 健やかな体の育成

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の向上をめざす。

【学びを支える教育環境の充実】

(1) 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

- ・1人1台端末を活かした学びの充実を図る。
- ・児童の心の状態や日々の状況を可視化し、いじめ・不登校などの未然防止・早期発見と迅速な対応に努める。

(2) 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

- ・働き方改革を推進し、過度な勤務時間の延長を防ぐ。

(3) 生涯学習の支援

- ・読書好きな児童の割合を向上させる。

令和 6 年度の総括と今年度の課題

現状と課題

昭和 33 年に開校した南住吉小学校は、多くの地元民から愛され地域の小学校としてその役割を担ってきた。最近、子どもの数が減少し、大阪市の小学校でも再編統合や一貫校への編成替えが進んでいるが、本校は学校選択制を利用した校区外の入学希望者が増加し、住吉区で最も児童数の多い大規模校となっている。そのため、各家庭での学校教育に対する考え方や、様々な家庭環境の違い等により、日々の児童の教育活動において、複雑かつ困難な対応が続く状況が多くみられる。また、いじめ問題については、暴言等への対応の充実が求められ、日常的な会話や遊びの中にみられるいじめ行為への指導体制の充実が課題として認識されている。

このような現状から、生活指導面の見直しをはかり、規律面の整備と学校組織の強化を進め、子どもが安心して学校生活をおくるための取り組みを進め、安心安全な学校に向けた指導の効果が出てきている。さらに、令和 6 年度よりこれまで課題であった、暴言などへの対応として、「ことば」を大切にし、うれしい「ことば」を増やす取り組みや、「みんなのために」活動できる取り組みを進め、さらに子どもたちにとって安心安全な学校となるよう教育活動を進めてきた。学力・体力については、大阪市や全国と比較して、低い状況にある。

令和 7 年度の課題としては、いじめのない安心安全な学校づくりに向けたさらなる取り組みの深化充実を図るとともに、ICT 機器の授業での活用を推進し、教員の授業力向上と児童の学力向上に向けた取り組みを。全教職員一丸となり重点的に進めていく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・ 望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に 1 回以上行う。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・ 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。
〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- ・ 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 2 を満たす教職員の割合を 80%以上にする。
- ・ 主幹学校司書との連携を強化し、授業での学校図書館利用を増やし、読書指導を進める。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度は昨年度の反省を踏まえ、以下の３点に特化した学校運営を進めた。

①「いじめのない安心安全な学校づくりに向けたさらなる取り組みの深化充実を図る」

②「ＩＣＴ機器の授業での活用を推進」

③「教員の授業力向上と児童の学力向上に向けた取り組み」

①については、「いじめ防止基本方針」の全教職員の共通理解と子供や保護者への丁寧な対応や、いじめアンケートの事前・事後指導の確認と徹底、そして、いじめ対応記録の保管場所や聞き取り内容の共通理解の体制づくりが進んだ。

②については、がんばる先生事業や学力向上支援チーム事業など大阪市の施策を活用し研究を進めた。研究のパッケージ化や他校との共同研究体制の構築、先進的な取り組みを行う学校への視察や研究発表会への参加を進めた。また、学習者用端末を活用し、作成したものをＴＶモニタを使って全体で共有するなど思考し深め合う授業改善を進めた。その結果、経年調査市平均正答率に対する校内平均正答率７割未満の割合が７～１１ポイントの大幅減少（３年 23→12.6 ４年 23→16.7 ５年 20.3→11.3 ６年 28.3→16.7）が見られ、学力の底上げができた。

③については、心の天気習慣化やＩＣＴ推進委員会を立ち上げ端末活用事例や取り組みの共有を行ったり、子どもたちのタイピング大会を開催したりした結果、端末活用率は昨年から 50 ポイントの大幅上昇した。

以上のような成果が見られた一方、目標としていた数値には未達の項目が見られた。次年度に向けて、①にかかわる「いじめを絶対に許さない」という児童が１００パーセントをめざして日々の指導を進めていく。②に関わる学習者用端末の活用率が、本年度平均を次年度は上回ることができるよう、ＩＣＴ教育推進委員会の取り組みを進めていく。③に関わる話し合い活動については、本年度取り組んだ子どもが思考する授業の上に、子ども同士で学びあう授業となるための研究を進める。

次年度も「『ことば』を大切にすること」をテーマに、３つの取り組みを進め、生活指導を土台とした、学びの環境を整備し、学びあう子どもたちを育てていく。

(様式2)

大阪市立南住吉小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 ・望ましい集団の育成に向けて、学年のまとまりを高める取り組みを学期に1回以上行う。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【安全・安心な教育環境の実現】 ◎いじめへの対応 本校の「いじめ防止基本方針」を全教職員が共通理解をし、それをもとにいじめの未然防止といじめ対応を行っていく。また、基本方針を見直し、改訂すべきところは改訂し、より実践的かつ有効的なものにしていく。いじめアンケートをより有効的に活用する。そして、いじめ事象が起こった際、組織として対応を図り、その指導を適切に記録しておく。また教職員のいじめに対する問題意識を高め、対応を強化する。 指標 学期始めに、全職員で「いじめ防止基本方針」を熟読する時間を設ける研修会を開く。児童に対しては、「いじめについて考える日」に全校集会を開き、学校長からいじめに対する講話を行う。また毎学期に、各教科横断的にいじめにかかわる授業を行うとともに、「思いやり週間」実施することで、児童一人ひとりがいじめに対する考え方を深化させる。特に、言葉の使い方指導を重点的に行う。年間の教育活動を通して、規範意識の醸成や仲間を認め合う集団育成を行い、いじめを生みにくい環境づくりに努める。また教職員に対しては、いじめに関する研修会を数回開催する。いじめアンケートを実施後は、いじめ対策委員会を開催し組織としてアンケート分析を行い、早期対応を図る。また、事象が起こった際は、学年や学校組織として対応し、事実確認や指導を記録・保管し、引き継ぎをできるようにしておく。	B
取組内容②【安全・安心な教育環境の実現】 ◎不登校への対応 不登校の児童が登校しやすい学校環境を作る。また、関係機関との連携強化に努める。 指標 不登校の児童やその家庭と密で丁寧な連携を図るとともに、関係諸機関とも協力し、児童や家庭に寄り添い、児童に合った登校の形を組織としてできる限り実現する。	B
取組内容③【安全・安心な教育環境の実現】 ◎問題行動への対応 南住吉小学校「学校安心ルール」に基づき、問題行動への適切な対応を行うとともに、問題行動の未然防止に努める。 指標 「南住吉小学校安心ルール」を年度初めに児童や家庭に周知し、年間を通して組織的にルールにのっとり一貫した指導を行う。また、児童には毎学期始めにそのルールを再確認するとともに、日々の生活指導にそのルールを適応する。また、問題行動が起きないように、毎学期「生活点検週間」を実施するなどし、本校が特に大切にする10のルールの意識付けを行い、規範意識を醸成する。	B
取組内容④【安全・安心な教育環境の実現】 ◎児童虐待等への対応 家庭との連携を密にし、ヤングケアラーやネグレクトを含む虐待等についてカウンセリングマインドを持って対応する。また、区役所や子ども相談センター等の関係機関との連携を強める。 指標 児童の日々のようす（行動、発言、服装、体へのあざなど）を、しっかりと観察し、	B

気になることがあれば職員間で連携して対応する。毎週の学年打ち合わせ会、月に1回の生活指導部会や職員会議後のスクリーニング会議を通して児童共通理解を密に図る。また、関係諸機関とも連携をとりながら、対応にあたるようにする。	
取組内容⑤【安全・安心な教育環境の実現】 ◎防災・減災教育の推進 警備及び防災計画に基づき、消防署・警察署・区役所と連携し、防災に対する児童の意識を高める。また、各教科と関連付けて、防災・減災教育を進める。 指標 火事、不審者、地震・津波への避難訓練を学期に1回以上実施する。また、様々な緊急・災害時に児童が安心して保護者と出会えるための引き渡し訓練を実施するとともに、防災教育の授業を実施する。	B
取組内容⑥【豊かな心の育成】 ◎人権を尊重する教育の推進 様々な人権を尊重する教育を通じて「自他ともに大切である」という心情を培う。また、暴言等を含めて、人が嫌がる行為をしないという教育を徹底する。 指標 各教科横断的に、マイノリティ（障がい者教育、国際理解教育など）を理解・尊重する学習や反戦・平和学習を計画的に実施し、豊かな心を育めるような個・集団づくりを進める。また、教職員は、年2回以上人権教育研修に参加し、内容の共有を図ることで、人権意識の向上に努める。	B
取組内容⑦【豊かな心の育成】 ◎インクルーシブ教育の推進 インクルーシブ教育を推進させるため、支援の在り方を工夫する。また、自校通級における指導や支援の実践・研究を進める。 指標 児童理解の研修会や個別の支援計画の活用、実践報告、支担会および学年会への参加を計画的に行う。また、自校通級指導の実践及び研修を行う。	B
取組内容⑧【豊かな心の育成】 ◎キャリア教育の充実 キャリアパスポートを利用し、年間を通してキャリア教育の充実を図る。 指標 キャリアパスポートを学期初めに書くことで達成できる目標を設定し、学期終わりには振り返りを行うことで、自分の成長に気づき、自己有用感を高める。また、大きな行事を記載することで、行事を通して学級や学年の仲間と協力することや他者のために頑張ることの良さに気づけるようにする。	B

【安全・安心な教育の推進】

年度目標の達成状況や取り組みの結果と分析	
①	年度当初には、「いじめ防止基本方針」を全職員で確認し、本校としての対応の共通理解を図った。また、生活指導部から毎月出ている児童報告文で、問題のある行動やいじめなどについて共通理解を図ることができた。また、毎学期には児童に対していじめアンケートを実施した。その際、児童に対しては、いじめに対する事前・事後指導も行った。そして、報告文書やいじめアンケートを基に、定期的にいじめ対策委員会を開催し、各事案に応じた対策についても具体的に検討をすることができた。さらに、いじめやいじめの前段階の指導に関しては、聞き取り・指導記録を必ずとり、保管場所を固定化し、記録を確実に保存していける体制を構築した。また、教員対象にいじめに関する研修会を開催し、いじめに対する考え方や対応を深化することができた。児童に対しては、いじめについて考える日や思いやり週間を通して、言葉の使い方や人との関わり方を指導することができた。また、学校として「ことば」を大切にする指導を重点的に行っていることもあり、子ども達にも浸透してきた。
②	不登校の児童が登校しやすい環境づくりに努めることができた。また、保護者とも連携を図り、学校の対応できる範囲内でその児童に応じた登校の在り方を考え、実施することができた。さらに、来年度開設予定の「登校支援ルーム」の企画・準備を計画的に進めることができた。
③	各学級・学年で「安心・安全ルール」や「10のルール」にのっとり、日々生活指導を行い、大きな問題行動が起きないように努めることができた。また、問題行動に対しては、「安心・安全ルール」で別室対応を学校として実施することもできた。もちろん、当該児童の保護者の協力も得ながら、本人の反省を促す機会をしっかりと設けることができた。さらに、毎学期に生活週間を実施することで児童一人ひとりに安定した生活基盤の定着を図ることができた。
④	児童のようすを日々観察し、早期発見を心掛けることができた。また、毎週の学年打ち合わせで児童の様子を丁寧に共通理解し、それを記録に残すことができた。また、その記録を生活指導部会や職員会議で共通理解を図ることができた。
⑤	計画的に引き渡し訓練や避難訓練を実施することができた。児童は訓練の意味を理解し、行動をすることができていた。また、各教科横断的に防災や減災教育に取り組むことで、児童の理解の幅を広げることができた。
⑥	年間指導計画に沿って、各学年で人権学習を進めることができた。また、今年度から「人権週間」に取り組むことができた。教職員も研修に計画的に参加することができた。
⑦	特別支援体制の深化充実に向けて、指導支援の在り方の工夫や研修会などが実践された。また、自校通級における指導や運営は確立された。通級研修により通級指導について理解が深まった。
⑧	毎学期にキャリアパスポートを記入することはできたが、学期をとおしてその目標を活用しきれていない部分もあった。
次年度への改善点	
①	引き続き学校としてトラブルの事象や聞き取り、指導内容などの記録を引き続き学校として残していく。また、「どのように対応した」も共有することで、若手教員の問題行動への対応力向上につなげることができる。さらに、教員のいじめ対応力の向上をより図るとともに、児童に対してもしじめは許されないことを引き続き指導していく必要がある。
②	今後も学校全体の不登校児童を把握し、特別支援的対応や生活指導的対応など分類し、組織として不登校に対応していけるようにする。そして引き続き、不登校の児童が登校しやすい雰囲気や環境を、保護者と連携しつつ整えていく。その一環として来年度には、「登校支援ルーム」を開設し、より不登校児童の状況に応じた対応を図れるように体制を整えていく。本校に不登校児童がメンタルを下げることなく明るく前向きに過ごせる環境を目指す。

③	引き続き、「安心・安全ルール」「１０のルール」「生活週間」を活用し、児童一人ひとりが自主的にルールを守って、みんなが安心して過ごせる学校になるように努める。今年度「１０のルール」の意識づけが弱かった部分もあるので、もっと学校として強調していく必要がある。また、大きな問題が発生した場合は、さらに学年や学校組織として対応を図れるようにする。
④	引き続き、児童のようすをしっかりと観察し早期発見に努める。また、各担任が抱え込まないように、学年の先生を中心にたくさんの先生が観察の目を持ち、共通理解を図り、組織として対応していけるようにする。
⑤	引き続き計画的に避難訓練を実施していく。また、各教科横断的に防災・防犯意識を高める授業に取り組む。また、保護者や地域にも、学校の安全教育の理解を得ていくようにする。
⑥	引き続き取り組むことで、児童・教職員の人権意識を高めていくことができるようにする。必要に応じて、人権学習に必要な教材を公費で購入し、系統立てて人権教育を進められるようにする。
⑦	支援学級在籍児童や不登校児童など、様々な課題に応じた指導法や特別支援体制の充実をさらに図る。
⑧	学校や学年の実態に応じた、使いやすい様式に変更していく必要がある。

大阪市立南住吉小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 40%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント向上させる。 ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 50%以上にする。 ・ 小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 60%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【誰一人取り残さない学力の向上】 ◎主体的・対話的で深い学びの推進 ・デジタルドリルを活用しながら、各学年で身につけたい基礎・基本の学習事項を定着させる。 ・すべての教科領域で学習者用端末を活用し、子ども自ら学習への取り組み方を考え、対話しながら学習を進める授業の構築を図る。 指標 小学校経年調査で「授業で、パソコンやタブレットをどれくらい使っていますか」という問いに対して、「週3回以上」と答える子どもの割合を50%以上になるようにする。	B
取組内容②【誰一人取り残さない学力の向上】 ◎英語教育の強化 C-NET および中学校からの英語加配の先生との連携を強化し、小学校教員として英語教育に主体的に取り組む。また、モジュール授業、絵本・DVDなどの教材を有効に利用し、英語に親しむ機会を増やす。 指標 ・教員が日常生活の英語を活用できるよう年1回以上の研修を行い、共通理解を図る。 ・週2回のモジュール授業の計画と実施、状況に応じて絵本・DVDの活用を進める。	B
取組内容③【健やかな体の育成】 ◎体力・運動能力向上のための取組の推進 専科指導教員と担任との連携を強化し、専門的な指導を取り入れた効果的な体育指導を行う。また、すべての児童が運動に親しむ機会を多く持てるように工夫する。 指標 ・学期に1回全学年で運動に親しむ機会を設ける。	B
取組内容④【健やかな体の育成】 ◎健康教育・食育の推進 手洗いや清潔なハンカチ・ティッシュを携帯する習慣を身につけさせる。 栄養・給食指導を通して、好き嫌いなく食べることの大切さを理解させる。 指標 ・学期に1回強調週間を設ける。 ・年2回、栄養指導の時間を設ける。	B

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標の達成状況や取り組みの結果と分析	
①	学校の研究で主体的・対話的で深い学びを推進し、基礎・基本の定着を図ることができた。学年の児童の実態に合わせてデジタルドリルやらっこたん、スカイメニュー、キャンバ等のコンテンツを活用し、できたものをTVモニターで映し、児童の考えを共有したことで、学力の基礎・基本の定着を図ることができた。しかし、全ての教科領域で学習者用端末を活用し、子ども自ら学習への取り組みを考え、対話しながら学習を進めるまでには至っていない。
②	C-NET および中学校からの英語加配の先生との連携を強化し、小学校教員として英語教育に取り組むことができた。また、モジュール授業を計画的に行い、絵本・DVDなどの教材を有効に利用し、英語に親しむ機会を増やしたことで、英語に対する抵抗感を減らし、楽しみながら取り組む姿が見られた。
③	なわとび週間、運動会、ランニングウィークなどの取り組みにより、普段外に行かない児童も目標を持って運動することができた。
④	強調週間や清潔調べ、クラスでの取り組みでハンカチ、ティッシュを毎日持ってくる児童が増えた。栄養指導や日々の給食指導を通して、好き嫌いなく食べることの大切さを意識することができた。
次年度への改善点	
①	新しいコンテンツが今年度紹介されたが、使いこなすところにまで至っていないので、実践例を共有し、積極的に活用できるようにしていく。教科領域でのタブレットの活用方法も情報の共有とともに、教師のスキルを上げるために継続して適宜研修を行っていく。さらに、学習用端末の家庭での有効な活用の仕方（宿題を含む）も検討が必要である。
②	教員の基本的な英語力を身に付けていくための研修を継続して行っていくとともに、モジュール授業の時間を確保し、日常的に使える教材やコンテンツの情報を共有していく。
③	各種取り組みの時だけ外に行くのではなく、児童が自ら意識して運動しようと思えるような新たな取り組みが必要である。専科の教員への指導を仰ぎ、低学年でも専門的な指導ができるように連携を進めていく必要がある。
④	ハンカチを常に携帯することに課題があるので、継続して指導し、保護者にも啓発していく必要がある。

(様式2)

大阪市立南住吉小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
【学びを支える教育環境の充実】 大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。 ・主幹学校司書との連携を強化し、授業での学校図書館利用を増やし、読書指導を進める。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成 状況
取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ◎データを根拠に児童の心の状況把握を推進 「心の天気」の入力を習慣化し、教員は児童の心の状況把握に努める。 指標 ・教員がスクールライフノートで毎日「心の天気」確認する。	B
取組内容②【人員の確保・育成としなやかな組織づくり】 ◎働き方改革の推進 会議時間の短縮、校時の短縮、余剰時数の削減、定時退庁日の実施、校務分掌の分担など、教職員の負担が軽減できるように働き方改革を推進する。 指標 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準2を満たす教職員の割合を80%以上にする。	B
取組内容③【生涯学習の支援】 ◎学校図書館の利用促進 図書委員会による読書推進の活動、図書館開放、学級図書の改善、読書ノートの取り組み等を通して、読書活動と図書環境の充実を推進する。 指標 ・本市調査における、「学校図書館貸出冊数（児童一人当たりの年間貸出冊数）」を50冊以上にする。	B

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標の達成状況や取り組みの結果と分析	
①	「心の天気」の入力は、習慣化できてきた。また、月ごとの状況一覧を印刷して学年内で共有できるようにするなど、教員も児童の心の状況の把握に努めることができた。
②	余剰時数の削減、会議時間の短縮、スクールサポートスタッフの配置などにより負担軽減を進めることはできた。しかし、業務量の偏り、人手不足など、さらなる負担軽減に向けて課題は残る。
③	図書委員会による読書活動の推進、図書館開放、司書による図書の推薦・読み聞かせなど読書への興味を引き立てる取り組みをすることで、読書活動と図書環境の充実を推進することができた。
次年度への改善点	
①	昨年度に比べると、端末の利用日数は増えているが、学級によって利用の差は大きい。今後も入力状況を可視化して、教員の意識を高め、児童の心の変化に気づけるようにしていく。また「心の天気」だけでなく、授業における端末利用についても増やしていきたい。
②	授業、生活指導、授業準備、校務分掌、保護者対応など教員の業務量が多い。放課後に確保できる時間が多いほど、負担軽減につながる。時間の削減については進んでいるので、次は業務の分担をさらに進める必要がある。分掌の業務を一覧化し、全員で運営するという意識のもと担当で分担して偏りができるだけないように取り組む。教育活動においても、「例年通りにする」ということではなく、教育的効果を考え精選していく。また自身の働き方を振り返り、よりよくしていこうとの意識をもつことも必要である。人員の確保も引き続き行う。
③	今後も児童が読書に興味をもつ活動を継続していき、多くの児童が本に親しめるように取り組んでいく。また、これまでの取り組みを精選して、読書の時間が確保できるようにする。